

## AIR475 における現代美術作家との共同制作による STEAM 教育について2

【代表者】高増 佳子 米子工業高等専門学校 教授

【共同研究者】藤田 英樹 島根大学 教育学部 教授

### 【研究の目的と内容】

米子市内でアーティスト・イン・レジデンス事業を実施している AIR 475(エアヨナゴ)の 2023 年度事業では、現代美術作家白川昌生氏と鎌田友介氏が滞在制作を行い、次年度に向けて米子市美術館など街中で作品発表を行う。

その作品制作過程において、島根大学教育学部藤田研究室や美術教室の学生たちや、米子高専学生(建築デザインコースや他の専門コースも)たちが、今年度は作家のレクチャーやリサーチ活動、さらには作品構想や制作などに参画し、学生たちの学びにつなげる。

そしてこれらの活動が STEAM 教育として、どのように効果があったのか、アンケートやヒアリング調査などから工学系の学生にとっての学びと、美術系学生にとっての学び、それぞれを明らかにする。

### 【研究の成果(本研究によって得られた知見、成果、論文、学会発表、外部資金への応募見込み等)】

白川氏は、リサーチ中にレクチャーを2回開催し、そこに学生たちが参加した。

白川氏は出雲信仰や神話にまつわる米子や山陰の偉人達をテーマに作品作りに取り掛かるべく、図書館や歴史館等で資料を調べてリサーチしていた。

鎌田氏も、リサーチ中にレクチャーを2回開催し、そこにまた学生たちが参加した。

鎌田氏は、海外の日本家屋(建築)がこれまでのテーマで作品作りをしていることもあり、米子高専の建築学生たちには、特に知らないことも多く知ることができ、大きな学びにつながった。

建物が解体され無くなった後に、そこに何が建っていたか思い出せない現象を景観認知症と言われていることなど紹介し、学生達にも、そのようなことに気づくことがなかったと、発見につながっていた。

また、米子高専の建築史の名誉教授や専門教員たちとのヒアリング(懇談会)リサーチに、学生も参加することができて、さらに学びの機会を得ることができた。